

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

## 病虫害発生予察情報について (予報第3号(7月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

### 《特に発生に注意》

【ぶどう】	チャノキイロアザミウマ
【バラ科果樹】	クビアカツヤカミキリ
【みかん】	ミカンハダニ
【果樹全般】	果樹カメムシ類
【野菜・花き類】	アブラムシ類

### 《7月の予報概要》

#### A 水稻

品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稻		いもち病			
			縞葉枯病 (ヒメビウンカ)		
	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)(発生に注意)				
	斑点米カメムシ類(発生に注意)				

#### B 果樹類

品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			べと病		
		褐斑病			
		晩腐病			
				チャノキイロ アザミウマ	
もも		せん孔細菌病			
			シンクイムシ類		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん		黒点病			
				ミカンハダニ	
いちじく			ミカンサビダニ		
果樹類全般			アザミウマ類		
				果樹カメムシ類	

C 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす	すすかび病				
		灰色かび病			
	うどんこ病				
			アザミウマ類		
トマト	葉かび病・ すすかび病				
		灰色かび病			
	うどんこ病				
				コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病)	
		ハモグリバエ類			

D 花き (きく)

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
花き(きく)	黒斑病・褐斑病				
			アザミウマ類		

E 野菜・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜・花き類			シロイチモジヨトウ		
			ハスモンヨトウ		
			コナガ		
			オオタバコガ		
				アブラムシ類	

《(参考)7月の気象予報》

気温	低い (10%)	平年並 (40%)	高い (50%)
降水量	少ない (40%)	平年並 (40%)	多い (20%)
日照時間	少ない (20%)	平年並 (40%)	多い (40%)

(大阪管区气象台 6月30日発表)

## A 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。</li> <li>・ 7月の降水量は少ない～平年並、日照時間は平年並～多いと予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気温 25～28℃、多湿で日照不足の時に多発し、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に発生が助長される。</li> <li>・ 田植後の余り苗を水田に放置しない。</li> </ul>
縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査での縞葉枯病の発生は平年並で見られなかった。</li> <li>・ 6月の巡回調査でのヒメトビウンカの発生は平年並であった。</li> <li>・ 6月の予察灯へのヒメトビウンカ誘殺虫数は平年並で見られなかった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病で、本病に対する有効な薬剤は無い。6月下旬～7月上旬の感染が多いので、この時期に媒介昆虫であるヒメトビウンカ防除を徹底する。</li> <li>・ 田植前までに水田、畦畔の除草を行う。</li> </ul>
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田植直後から約 20 日後までの食害による被害が大きいため、この期間は水深 4 cm 以下の浅水管理を行う。</li> <li>・ 桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。</li> </ul>
斑点米カメムシ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近年、本府ではアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシなどの発生が多い。</li> <li>・ イネが出穂すると畦畔や周辺のイネ科雑草から水田に飛来してくるので、出穂 10 日前までにはほ場周辺の畦畔や休耕田の除草を実施する。</li> </ul>

## B 果樹

### 1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、露地栽培での発生はやや多かった。</li> <li>・ 7月の気温は高く、降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気温 20～22℃位のやや低温で雨が多いと発生しやすい。</li> <li>・ 発生を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。</li> </ul>
褐斑病	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生は平年並であった。</li> <li>・ 7月の降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 枯枝や落葉、被害葉は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。</li> </ul>

晩腐病	やや少ない～並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。</li> <li>・ 7月の降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被害果房は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。</li> <li>・ 施設内への雨滴の侵入を防ぐ。</li> </ul>
チャノキイロアザミウマ	やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査での発生は平年並で見られず、被害果の発生も平年並であった。</li> <li>・ 6月の黄色粘着トラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。</li> <li>・ 7月の気温は高く、降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>

## 2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> <li>・ 7月の降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝染源となる発病枝などは取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。</li> <li>・ 風当たりの強い園地では、防風ネットなどを設置する。</li> <li>・ 薬剤防除は多発してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。降雨前の防除が効果的である。</li> </ul>
シンクイムシ類	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。</li> <li>・ 6月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。</li> <li>・ 被害果や被害枝は取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。</li> </ul>

## 3 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる）を排出する。6～8月に成虫が羽化し、幹や樹皮の割れ目に産卵する。</li> <li>・ フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回り、フラスを認めたら、千枚通しや針金などでフラスをかき出してから登録農薬を注入する。</li> <li>・ 発生地域では、成虫対象の登録農薬を樹全体に散布する。</li> </ul>

#### 4 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。</li> <li>・ 7月の降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6～10月に降雨が多いと発生が多い。</li> <li>・ 収穫前日数の長い散布薬剤については、散布時期に特に注意する。</li> <li>・ QoI 剤は、1作1回程度の使用にとどめる。</li> </ul>
ミカンハダニ	やや多い～多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生はやや多かった。</li> <li>・ 7月の気温は高く、降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
ミカンサビダニ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月の気温は高く、降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>

#### 5 いちじく

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
アザミウマ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月の気温は高く、降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ハナアザミウマがいちじくを加害する。</li> <li>・ 果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。</li> <li>・ ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。</li> <li>・ 光反射シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。</li> </ul>

#### 6 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数はやや多かった。</li> </ul> <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。</li> <li>・ 薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。</li> </ul>

## C 野菜類

### 1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	少ない～やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なく見られなかった。</li> <li>・ 7月の降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被害葉は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。</li> <li>・ 高温多湿になる施設栽培で発生が多いため、過湿にならないように管理する。</li> <li>・ 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤、SDHI 剤は、1作1回程度の使用にとどめる。</li> </ul>
灰色かび病	やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。</li> <li>・ 7月の気温は高く、降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開花後の花弁をとり、病原菌の侵入を防ぐとともに、被害葉・被害果を早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。</li> <li>・ 低温（20℃前後）多湿時に発生が多い。</li> <li>・ 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤、SDHI 剤は、1作1回程度の使用にとどめる。</li> </ul>
うどんこ病	少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なく見られなかった。</li> <li>・ 7月の降水量は少ない～平年並、日照時間は平年並～多いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 窒素過多で気温が 25～28℃、湿度が 50～80%で日照不足が続くと発生しやすい。</li> <li>・ 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。SDHI 剤は、1作1回程度の使用にとどめる。</li> </ul>
アザミウマ類	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> <li>・ 7月の気温は高く、降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・ 葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。</li> <li>・ 施設栽培では、開口部を 0.8mm 目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>・ 露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。</li> </ul>

## 2 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・ すすかび病	少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生は少なかった。</li> <li>・ 7月の降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過湿条件で発生しやすい。</li> <li>・ すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。</li> <li>・ 被害茎葉は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。</li> <li>・ 多発時には、防除が困難であるため、予防的散布が大切である。</li> <li>・ 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤、SDHI 剤は、1作1回程度の使用にとどめる。</li> </ul>
灰色かび病	やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。</li> <li>・ 7月の気温は高く、降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低温（20℃前後）で多湿時に発生が多い。</li> <li>・ 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤、SDHI 剤は、1作1回程度の使用にとどめる。</li> <li>・ 開花後の花弁をとり、病原菌の侵入を防ぐとともに、被害葉・被害果を早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。</li> </ul>
うどんこ病	少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生は少なかった。</li> <li>・ 7月の降水量は少ない～平年並、日照時間は平年並～多いと予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乾燥条件で、気温 20～25℃で発生が増える。</li> <li>・ 日照不足が発生を助長する。</li> <li>・ 多発時には、防除が困難であるため、予防的散布が大切である。</li> <li>・ 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。SDHI 剤は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。</li> </ul>
コナジラミ類 （トマト黄化葉 巻病）	やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。</li> <li>・ 7月の気温は高く、降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 吸汁による果実の着色異常のほか、すす病、タバココナジラミによる TYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）の媒介など様々な被害を引き起こす。TYLCV に対する有効な薬剤は無いため、媒介昆虫であるタバココナジラミの早期発見・早期防除に努め、発生初期に薬剤散布を実施する。</li> <li>・ 施設栽培では、開口部を 0.4mm 目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>・ ほ場周辺の除草に努める。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・トマト黄化葉巻病の発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。</li> </ul>
ハモグリバエ類	やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の巡回調査では、発生は少なかった。</li> <li>・7月の気温は高く、降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マメハモグリバエやトマトハモグリバエなどが加害する。</li> <li>・摘葉した被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。</li> <li>・ほ場内や周辺部の除草を徹底する。</li> </ul>

#### D 花き（きく）

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・ 褐斑病	少ない～やや少ない	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なく見られなかった。</li> <li>・7月の降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降雨の多い場合に発生が多いので、発生前から薬剤の予防散布を行う。</li> <li>・被害葉は早めに取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。</li> <li>・QoI 剤は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。</li> </ul>
アザミウマ類	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の巡回調査では、発生はやや少なかった。</li> <li>・7月の気温は高く、降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品種により被害の現れ方に差がある。</li> <li>・施設栽培では、開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。</li> <li>・ほ場周辺の除草に努める。ビニールなどのマルチングにより、土中で蛹化するのを防ぐ。</li> <li>・きくの残さは放置せず、ほ場外に持ち出し処分する。</li> <li>・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> <li>・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。</li> </ul>

#### E 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨ トウ	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。</li> </ul>



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用を避ける。</li> </ul>
ハスモンヨトウ	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。</li> <li>・6月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。</li> <li>・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>
コナガ	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生初期に防除を行う。</li> <li>・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。</li> </ul>
オオタバコガ	並	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。</li> <li>・摘除した茎葉や果実にも、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場から持ち出し処分する。</li> </ul>
アブラムシ類	やや多い	<p><b>[予報の根拠]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回調査では、発生はやや多かった。</li> <li>・6月の黄色水盤調査における誘殺虫数は平年並であった。</li> <li>・7月の気温は高く、降水量は少ない～平年並と予想されている。</li> </ul> <p><b>[注意すべき事項]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介する。</li> <li>・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</li> </ul>

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannosuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)